

# 日本国民への提言

## 日本の国民一人ひとりが、自らの「からだ」の「しくみ」を生かすことで、日本を再生する

ある小冊子「からだのしくみ」を思い出します。水はたまった田んぼのあぜ道に立ち、たまたま入った道をどうして歩いたか、あぜ道に沿って歩いた道を10回近く入れてもふなは入りません。やっぱり歩かないのだと思いついて、これが最後たまたまを入れた道で、初めて小さなふなが一匹入っていました。

この現象は大いさです。やっぱりふなはあんなに歩かないことになりました。それからしばらくの間、あんなに歩かないことになりました。意識のもとにたまたまを入れたことになりました。すると、ふなが入るは入るは、バケツに入らさらないぐらいの数ほどになりました。

これは、間違いないという思いに至ります。これは、どうかな大丈夫かなとおもってやることには、行動と結果に大きな違いが生じます。

ROB医療についても、同じようなことが言える状況になってきました。「上腹部の柔軟性」と「呼吸・循環・人体力学・自律神経・内臓全般の動き」との関係がはつきりし、それを「指標」とすることで、大きな治療と予防の効果を明確に得られることになってきたのです。

「この『私の危険な本音』(曾野綾子著 青志社)から一部引用します。これから一番大変なのは、いかな話ですけど「年寄をどう始末するか」という問題ですね。どうしたら穏やかに、比較的幸福感、不当な長生きをしないようにするか。もう始めなきゃいけないことですよ。国も医学界も何もやっつけられないですよ。国だけじゃなく、長寿に奔走したドクターたちにも責任がありますよ。(笑)」

医療関係者のみならず、国民一人ひとりにとって大きな警鐘です。前2回にわたり、井村裕太、公益財団法人先端医療振興財団、名誉理事長が先制医療(図1)を、大内尉義、日本老年医学会理事長が「フレイル」(図2)という概念をそれぞれ提案されておられることを紹介しました。

「からだ」全体の「はたらき」が低下しているため、「上腹部の柔軟度」は高くなっている。そのため、「発症前期」と「フレイル」の状態を「上腹部の柔軟度」を「指標」とすれば早期発見できる。その早期発見した時点で「上腹部の柔軟度」をROB治療で回復し、「上腹部の柔軟度」がよわらかくなると、その人の、その時点で「呼吸・循環・人体力学・自律神経・内臓

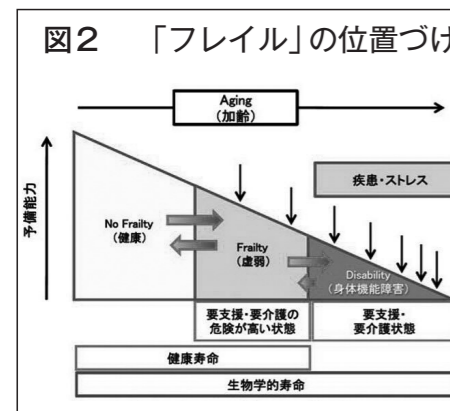
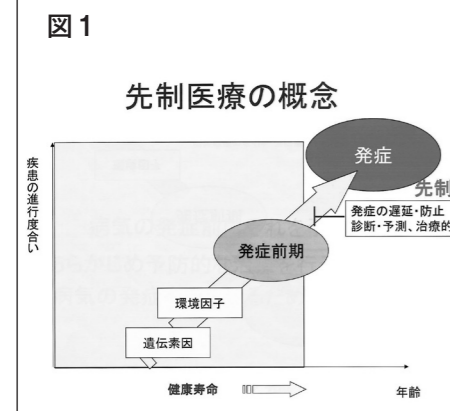
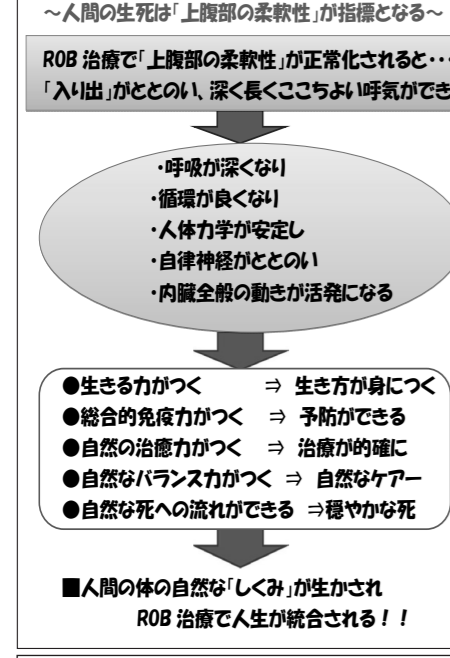


581-0061 大阪府八尾市春日町1-4-4  
電話 072(991)3398 FAX 072(991)4498  
ホームページアドレス http://www.tamagobl.com/

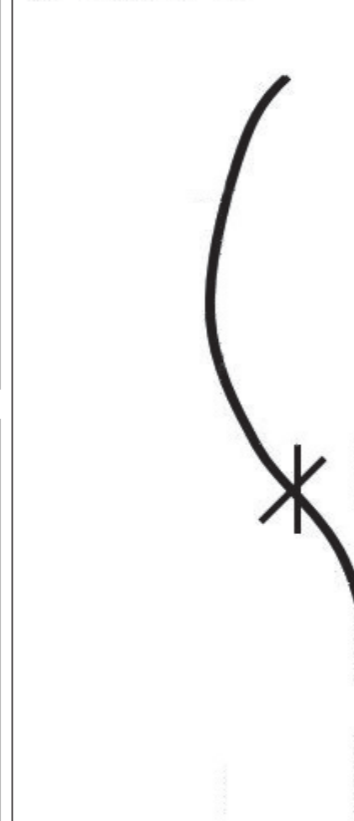
## 今後のあるべき医療 健康体を活かす医療 たまご理論で病気のしくみを考える

たまごビル院長 石垣 邦彦

表1 人は楽しむために生まれてきた!  
~人間の生死は「上腹部の柔軟性」が指標となる~

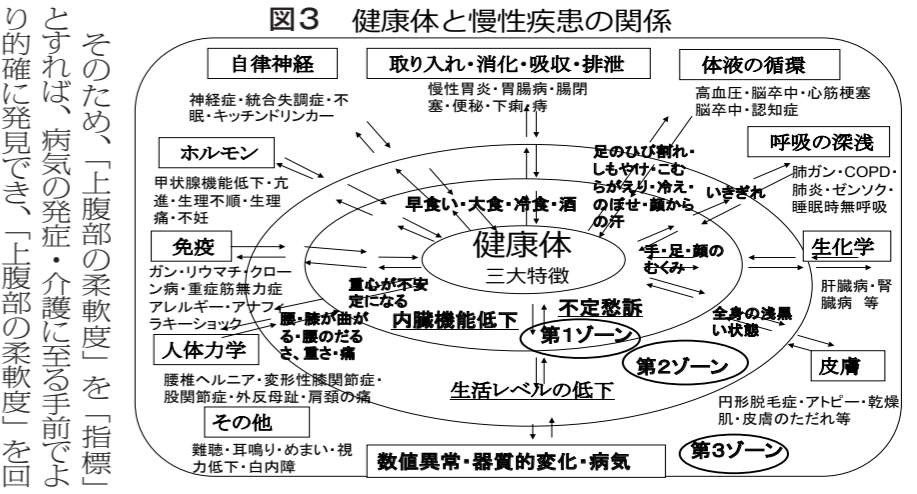


### 図4 胸腹(むねばら) 臍



「腰」を題材にし、「からだ」の「しくみ」がスムーズにはたらかぬ状態「健康体の特徴」である「上腹部の柔軟度」と「人体力学」の関係を核に「一腑に落ちる」「納得がいく」「違和感のない」「新しい概念の実践を述べてゆきたい」と思っています。

「Ⅰ」胸腔(むねばら)とはどういふ状態か  
「Ⅱ」背骨・腰・膝の曲がり、頰が回らない、すり足でないことと歩けない、手が上がらないなどの姿勢と動作の異常は、「からだ」全体を守るための防御反応



「Ⅲ」人体力学(姿勢と動作)発見に至る経緯について  
「Ⅳ」わたし自身の「からだ」の気づきについて(特に人体力学II姿勢と動作の観点から)

「Ⅰ」胸腔(むねばら)とはどういふ状態か  
「Ⅱ」背骨・腰・膝の曲がり、頰が回らない、すり足でないことと歩けない、手が上がらないなどの姿勢と動作の異常は、「からだ」全体を守るための防御反応

「Ⅲ」人体力学(姿勢と動作)発見に至る経緯について  
「Ⅳ」わたし自身の「からだ」の気づきについて(特に人体力学II姿勢と動作の観点から)

「Ⅴ」お腹を押さえた痛みII圧痛と頰の緊張・背骨・腰・膝の曲がりとの関係  
「Ⅵ」腹部の圧痛を明確にする

「Ⅶ」お腹を押さえた痛みII圧痛と頰の緊張・背骨・腰・膝の曲がりとの関係  
「Ⅷ」腹部の圧痛を明確にする

「Ⅰ」胸腔(むねばら)とはどういふ状態か  
「Ⅱ」背骨・腰・膝の曲がり、頰が回らない、すり足でないことと歩けない、手が上がらないなどの姿勢と動作の異常は、「からだ」全体を守るための防御反応

「Ⅲ」人体力学(姿勢と動作)発見に至る経緯について  
「Ⅳ」わたし自身の「からだ」の気づきについて(特に人体力学II姿勢と動作の観点から)

「Ⅴ」お腹を押さえた痛みII圧痛と頰の緊張・背骨・腰・膝の曲がりとの関係  
「Ⅵ」腹部の圧痛を明確にする

「Ⅶ」お腹を押さえた痛みII圧痛と頰の緊張・背骨・腰・膝の曲がりとの関係  
「Ⅷ」腹部の圧痛を明確にする

「Ⅰ」胸腔(むねばら)とはどういふ状態か  
「Ⅱ」背骨・腰・膝の曲がり、頰が回らない、すり足でないことと歩けない、手が上がらないなどの姿勢と動作の異常は、「からだ」全体を守るための防御反応

「Ⅲ」人体力学(姿勢と動作)発見に至る経緯について  
「Ⅳ」わたし自身の「からだ」の気づきについて(特に人体力学II姿勢と動作の観点から)

「Ⅴ」お腹を押さえた痛みII圧痛と頰の緊張・背骨・腰・膝の曲がりとの関係  
「Ⅵ」腹部の圧痛を明確にする

「Ⅶ」お腹を押さえた痛みII圧痛と頰の緊張・背骨・腰・膝の曲がりとの関係  
「Ⅷ」腹部の圧痛を明確にする